

牛寺死朱幸良

7 病 第 2 7 号

令和7年1月20日

関係各位

京都府病害虫防除所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察特殊報第3号

病害虫名 チュウゴクアミガサハゴロモ

Pochazia shantungensis (Chou & Lu, 1977)

作物名 チヤ、カンキツ類、ウメ、モモ、ナシ、
カキ、庭木等幅広く加害する。

発生地域 京都府全域

1 発生経過

(1) 令和6年秋期、宮津市のカンキツほ場および山城地域の茶園で、チュウゴクアミガサハゴロモと疑われる成虫と幼虫を確認した。

令和7年10月以降、府内広域から茶園、カンキツ、イチジクなどの果樹類や庭木等で疑似成虫や産卵痕の目撃や被害情報が複数寄せられ、当所内（亀岡市）に設置している予察灯でも同成虫の誘殺を確認した。

このため、宮津市のカンキツほ場と当所内（亀岡市）に設置している予察灯で採取した成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、チュウゴクアミガサハゴロモと同定された。

(2) 本種は、令和7年1月20日現在、京都府を含めて23都府県で特殊報が発表されている。

2 形態及び生態

(1) 本種成虫は赤褐色から暗褐色の蛾に似た形態をした体長14mm～15mmのカメムシ目の昆虫で、前翅前縁中央部に三角形の白い斑紋を有する（写真1、2）。

(2) 幼虫は白色をしており、背中から腹部にかけて綿状の蠣物質の毛束を広げている（写真3、4）。背中には小さい黒い斑紋を有する。

3 被害の特徴

(1) 成虫、幼虫とともに枝を吸汁加害し、発生量が多いと糖分を含んだ排せつ物により、すす病を生じさせる恐れがある。

(2) 成虫が新梢等の直径10mm以下の細い枝や葉の葉脈部分に産卵管を挿しこみ、規則正しい列状に多数の卵を産み付ける。

この際、産卵管が維管束を傷つけるため（写真5）、伸長抑制や新梢枯死等の被害を生じさせる恐れがある。

産卵痕は白い綿状の蠣物質で被覆される（写真6）。

*茶樹の場合、産卵痕がクワシロカイガラムシ（写真7）やヒサカキワタフキコナジラミ（写真8）に似ているが、蟬物質を取り除いた際に、枝に産卵管による傷が確認できるため、判別可能である（写真9）。

4 防除対策

- (1) 令和7年11月20日現在、対象作物において本種を対象とした登録農薬は無い。
- (2) 産卵された枝は放置せず、地中深くに埋設、焼却処理を行うなど、適切に処理する。
- (3) ほ場内をよく見回り、成虫や幼虫を確認したら速やかに捕殺する。



写真1 チャ葉上の成虫



写真2 ツバキ枝上の成虫と産卵痕

三角形の白い斑紋



写真3 チャ葉上の幼虫



写真4 ミカン枝上の幼虫

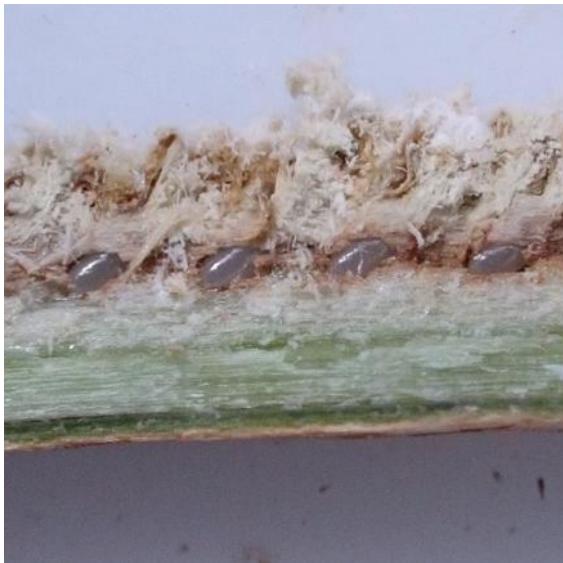


写真5 枝内の卵



写真6 ツバキに産み付けられた産卵痕

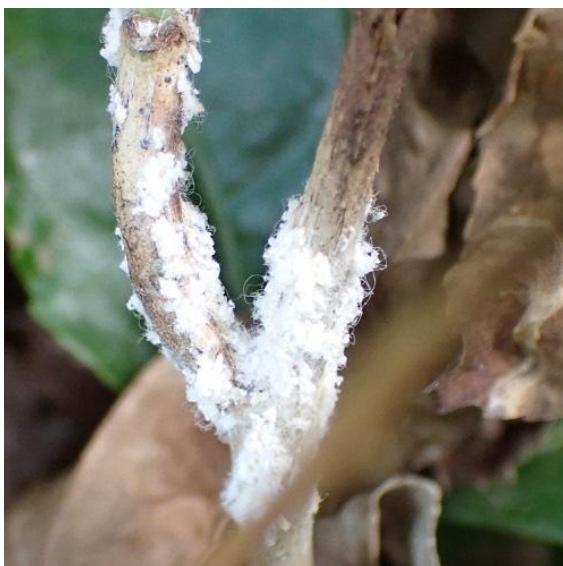


写真7 クワシロカイガラムシ



写真8 ヒサカキワタフキコナジラミ



写真9 蟻物質を取り除いた産卵痕
(チュウゴクアミガサハゴロモ)